# 宇部市文化振興まちづくり審議会　会議概要

日　時：令和２年(2020年)9月30日（水）15：00～16：45
場　所：原則としてオンライン
　　対面参加者は、市役所文化・スポーツ振興課
出席者：委員７人
事務局：森観光・ＣＰ部長、安光観光・ＣＰ部参事
　　荒武文化・スポーツ振興課副課長
　　酒井文化振興係長　中島主任

## １　議事

### （１）「文化振興ビジョン（第二次）」の進捗状況について

文化振興ビジョンに規定された、各種事業の進捗状況について、事務局より説明。

（会長）　2020年度は各事業とも大幅に事業が縮小されている状況です。縮小どころか、ほぼ実施できていないと言っても良いかもしれない。

事業が軒並み中止や延期に追い込まれているが、世界全体で新型コロナウイルスの感染が拡大している状況になっているので仕方ないところでもあると思う。

やはり、人間の健康や生存が一番大事であるので、しばらくはリモートやビデオなどを使ったりしていろいろ工夫しながら文化を広げることを考えなくてはならないだろう。

（委員）　１０月３日にＮＡＯＴＯのコンサートがやっと開催できた。これは久々の自主事業であり、感染対策として席を１席ずつ空けて実施することとしたが、まだ市民も会館に足を運ぶことに二の足を踏むところもあり、席の売れ行きは芳しくない。

しかし、市民に少しでも文化を享受してもらいたいことから、

収益は二の次で赤字覚悟で開催した。

（会長）　自粛が続いているので外出しない傾向が強まっています。
一時に比べると、感染は落ち着いてきているが、特に高齢者はまだ自粛をしている人が多いのでしょう。時間の経過を待たなくてはならないと思う。
今年良くなるか、来年まで続くのか、こればかりは見通しがたたないので文化活動者としては不安でしょう。

（会長）　○○委員のところのホテル部門はどのような状況でしょうか？

（委員）　ホテルはほぼ壊滅的、先ほど文化創造財団の実績の報告がありましたが、ほぼ同じような状況です。
３月からしばらくの間は、前年の２０％を切るような数字でした、７～８月は私どものホテルはプールがあるので、４～５割に改善し、ＧＯＴＯトラベルキャンペーンの効果もあり、９月の連休はそこそこお客が入った。
しかし、その後は、期待していたほど客足は伸びてない。
ホテルはやはり人が動かないとだめで、イベントやビジネスが戻らないと厳しい。
ホテルには、催事や会議室等もあるが、コロナ感染拡大前は、文化関係の会合で良く使われていたが、今は全然ない状況です。

（会長）　他にご意見などありますか？
重点項目は、かなり影響してくるところがありますね。
学校教育や子どもへの文化事業などは、少人数にしてもなんとか継続していかなくてはならないと思います。

（委員）　何点か意見があるが、まず最初に、事務局の資料の第２６番目に関して、「ＵＢＥアートフェスタ」の名称に疑問があると感じている。
これは、ＵＢＥアートフェスタとう名称で説明や広報もされていたが、元々は、ＵＢＥビエンナーレに、まちなかアートフェス

タ、うべの里アートフェスタ、宇部市芸術祭が組み合わさったものだった。

前回の 2017 年は、「ＵＢＥビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」という名称で、パンフレットをつくり広報活動を行った。

これこそが、「ＵＢＥビエンナーレ」の伝統を大切にする適切なやり方だったと思う。

やはり核になるのは、ＵＢＥビエンナーレであり、あとはこれに付随するもの、付随といっても大事なものだが、ＵＢＥアートフェスタの中で、市内外または世界にアピールできるのはＵＢＥビエンナーレだけではないかと思う。

それを、ＵＢＥビエンナーレの名前を全面に打ち出さずに、ＵＢＥアートフェスタという名称にするとＵＢＥビエンナーレが埋没してしまう恐れがあるし、実際にそうなっている。

宇部市の広報紙でも「ＵＢＥアートフェスタ開幕」と書かれてあったし、各種の新聞にも「ＵＢＥアートフェスタ開幕」とあり、この中に入っているＵＢＥビエンナーレが特に強調されることもなかった。

これでは、知らない人が聞くと、今年はＵＢＥビエンナーレが開催されるかどうかわかないだろう。

ＵＢＥビエンナーレは全国レベル、世界レベルであり、「ＵＢＥビエンナーレ開幕」と銘打って、もっと認知度を上げていかないといけないのではないか？

次回以降の大きな課題で、なんとか広報の仕方や名称を検討していけたらと思っている。

（会長）　広報的には、ＵＢＥビエンナーレとＵＢＥアートフェスタを切り離して展開する方法なども考えられると思う。

審議会でこのような意見があったということは、担当部署に事務局から伝えてください。

「ＵＢＥビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」の会議のなかで、愛称を「ＵＢＥアートフェスタ」としたわけだが、宣伝手法としてＵＢＥビエンナーレが埋没することであれば、広報の仕方を見直していく方法を模索する必要があるだろう。

（委員）　次に、新型コロナウイルス感染防止のためＵＢＥビエンナーレが 2022 年に延期されたわけだが、２年毎の開催が崩れ、次が３年後となった。

５８年もの間、脈々と２年毎に続いてきたＵＢＥビエンナーレが途絶えたのは、非常に大きな痛手だ。規模を縮小しても実施すべきであったと思う。

世界的にみても、ＵＢＥビエンナーレの５８年開催が圧倒的に長い。

始まった年でみるとベネチアが早く１００年前であり、サンパウロも宇部より古い。

しかし、両者とも、途中で途切れている。連続した開催期間としては５８年という宇部が一番長いのです。

これは、大変なことで、まさに続けている期間が世界最長であり、これに意義や価値があったのに、今回途切れたのは本当にもったいない。

「新型コロナウイルス感染防止のため開催できない」と、できない理由をあげるのは安易すぎたのではないか。

規模を縮小しても、やり方を工夫して２年毎に開催することを考えてもらいたかった。

2021 年に予定どおり開催できるとＵＢＥビエンナーレ６０周年だったが、2022 年なら６１周年になり「きり」が悪い。

途切れずに開催すれば、市制１００周年と合わせ相乗効果も狙えたのに、ここからも外れた。この好機を逃したのは痛い。

東京オリンピック・パラリンピックも今のところ 2021 年に延期して開催される予定であるので、こちらの国内外からの需要を取り込めたのに残念だ。

（会長）　ビエンナーレ開催延期の議論はどこで決まったのか？

委員さんと同様の意見もあったのではないかと予想するが、こちらの審議会でこのような意見があったことを担当部局に報告してもらいたい。

また、先ほどの「ＵＢＥアートフェスタ」にビエンナーレが埋没しているという意見も併せて重ねて報告願います。

（委員）　第４４番の指標について意見がある。

姉妹都市のニューカッスル市の中学生の派遣が少ないようだ。

昨年度、派遣人数は目標値１３人に対して実績が１０人となっている。

是非１３人は派遣してもらいたいし、可能であれば、１４人以上など、もっと増やすことを希望する。

私は、教育委員もしており、委員会でもいつもこの話をしているが、派遣された生徒からは、毎年大変良かった、世界をみる視点が変わった、拡がったなどという感想がある。

すべての公立校及び私立校から、学校代表で１名参加してもらいこの経験を本人だけでなく学校全体に拡げてもらいたい。

これからはグローバルな視点が大切になるので、新型コロナウイルス感染が収束することが前提だが、是非よろしくお願いしたい。

**（２）　宇部アートコミュニケーター事業（うーばー・プロジェクト）について**

今年度の新規事業である標記事業について、事務局より説明。

（会長）　直ちに理解するのが難しい新たな事業ですね。

この取組は、先ず何のために行うのでしょう。個人のためなのか、または社会のためなんでしょうか？

資料の中に概念図があるが、失礼だがまだ具体的にイメージが湧き上がってこない。

今でも個人的に市民活動やイベントしている人もいるが、それを、市の行政課題に結び付けて活動してもらおうというわけ

ではないのですね？

（事務局）　そのとおりです。市民に直近の行政課題を解決してもらうことが目的ではありません。

結果的にそうなることはあるかも知れませんが。

こういった言い方もおこがましいのですが、市民が自分たちで考えて、自分たちがやりたいことをする。その成果・果実が自分たちに返ってくる。

そして、それぞれの活動の結果が社会に還元されていけば良いという考えになります。

発案者が行政ではなくアートコミュニケーターとなります。それを、行政は当面サポートして行こうというのが基本の考え方です。

社会にアートコミュニケーターの考えや活動内容が還元され地域社会に貢献するということを考えている。

（会長）　社会に貢献するとはどのようにしていくのか？

従来型の行政が仕切る活動でもないし、市民の主体的とはいえ、問題解決型ではないような気がする。

地域で何かやりたいなと思うと、いつか場所を借りて活動する拠点も必要ではないかと思うが、組織として「宇部アートコミュニケーター」というものをつくるのか？

（事務局）　組織をつくることにしています。アートコミュニケーターの在籍期間は３年とし、それ以降は、それぞれが各地域や職場、その他様々な場所でアートコミュニケーターとして活躍してもらいたいと考えている。

（会長）　人の輪を広げて行こうということですね。

（事務局）　人と人が、アートを介してつながっていく、市民と市民との結び役になっていくことが必要と考えています。

（会長）　先日、宇部市北部の通称「うべの里」の調査をしたが、地域・学校・企業・アーティストがいたり、また地域の学校の卒業生が一緒になって地域おこしの活動を行っている。

アートだけでもないが、アートを介してコミュニティの活性化これがアートコミュニケーターか？

（事務局）　市には、文化・スポーツ振興課、ＵＢＥビエンナーレ推進課、中心市街地や北部地区を担当する部署もある。

そうしたところが連携して同一基盤で事業を支援して行こうと考えている。

（事務局）　話は前後するが、一般的に政府と市民・個人との間には、「中間的共同体」と呼ばれる「町内会・隣近所や職場・家族・親戚」などがあり、これらが個人と個人とを結びつけ、人と人、人と社会を結びつけ、いわゆる共同体をなし、助け合いながら共に生きてきた。

それが、高度経済成長以降、特に 1980 年代以降、地域や職場の共同体がどんどん小さくなり、個人と個人とを結びつける力が大変弱くなった。

今は、個人個人が、趣味など小さなグループに属し、相互に関わり合いを持たない。また他者やグループと関わりをもたない状況になっている。

「地縁」「血縁」の社会が非常に小さくなっていき、個人や小さなグループが孤立する状態にある。

それを、いわば「文化縁」という名前でしょうか、アートの力で、地域の共同体、「地縁」「血縁」とくらべると、「ゆるやかな」つながりとなるが、新しい共同体を模索していきたいという思いがこの事業の先にはある。

（会長）　大体イメージできた。

なかなか意欲的な取組でとても良いと思う。

これについて委員の皆さん意見はありますか？

（委員）　私も、うーばー・プロジェクトに入っている。

先日、山口情報芸術センターの会田大也さんの「芸術はどう見るのか」という講義を受講し大変ためになった。

一つ要望ですが、是非予算をつけてもらいたい。

（会長）　予算的なものはあるのか？

（事務局）　必要なものには予算をつけていきたいと思うが、やはり市民の主体的な活動という趣旨からすると、ある程度限定的な予算になろうかと思う。

アートコミュニケーターの皆さんが、市の予算確保を前提にせずいろいろなアイデアを出して活動されるのが理想と思う。

しかし、まだ決まっていないが、何とか活動の場はどこかに確保していきたいと考えている。

また、企業・団体の協賛も考えてみるのも良いと思う。

活動の趣旨に賛同する企業・団体も協賛金を出すだけでなく、活動に参加するなら一緒になって地域づくりができるのではないだろうか。

（会長）　行政が主導していくのではなく、市民の主体的な活動に予算がつく可能性があるという考えですね。

文化の創造から、人の輪が増えていく、それを短期的でなく長期的に実行しようとしているのですね。

いろいろ楽しみなプロジェクトだと思う。

**（３）　「文化振興ビジョン」第三次版への改訂について**

文化振興ビジョンの改訂についての作業スケジュールを事務局より説明。

（会長）　2011年に審議会が設置され、2012年に最初の文化振興ビジョンが作成された。

2017年に、第二次版へと改訂しながら、年次的にも必要に応じて改訂を加えるなど改良を重ねてきた。

第二次版に改訂した2017年は、5回審議し、重点プロジェクトのテーマも事業の進捗状況に合わせて大幅に改訂した。

今回は、コロナ禍の真っ最中という大変な時期ではあるが、将来を見据えた上で、次の5年間の計画をつくろう。

是非、宇部市の文化全体を包括するものにしたい。

（会長）　時間になりましたので本日はこれで終わりたいと思う。

次回は、２月～３月に開催して、今後の文化振興ビジョンの方向性を少し考えて見ましょう。